



ご挨拶（平成 28 年改訂）

清水 固



清水比庵のホームページへようこそ！

私は清水比庵の孫の清水固（カタシ）と申します。

昨年（平成 27 年、2015 年）は比庵の死去から 40 年、比庵の号を名乗るようになって 80 年の節目の年でした。このため比庵の作品展が美術館で 4 回、その他で 2 回開催されました。

最近の傾向は比庵の故郷岡山県だけでなく首都圏等でも愛好者が増えたことと絵手紙愛好者の比庵ファンが多いことで、孫として大いに感謝しております。

一方生前の比庵を知る人は僅かになり、多くの人を引き付けたその人柄についての記憶が薄れ、作品も収集家が亡くなるなどして散逸するのは時代の趨勢です。

私も 84 歳（平成 28 年 6 月現在）になり、最後の仕事として比庵関係の資料をまとめたホームページを作り、これにより後世に比庵の記憶と記録をその豊かな人間味とともに伝える事できたらと思い立ちました。ホームページの内容は次の通りです。

1 テーマ毎の作品のまとめ

画 : 比庵富士、比庵雀、老松、花、風景など

書 : 漢詩、熟語、歌など

絵手紙 : 学生時代（明治）、銀行員時代（大正）、芸術活動時代（昭和）

2 私のエッセー : 孫から見た比庵の人間像いろいろと周辺の人々について

3 比庵関連年譜

4 比庵関連出版物

5 比庵関連イベントの案内

このほか比庵のファンクラブである「比庵佳境の会」を作りました。詳細はホームページの最後に記載いたしますのでよろしかったらご加入ください。

なお参考として清水比庵略歴と比庵が名誉市民になっているふるさと岡山県高梁市（タカハシシ）にある「清水比庵記念室」（2004 年平成 16 年新設）の紹介と、清水比庵略歴を付記いたしました。



清水比庵略歴

清水比庵（1883～1975、明治 16～昭和 50）は岡山県高梁市（当時は上房郡高梁町）生れ。高梁中学、第六高等学校、京都帝国大学卒業後、司法官になったが、健康上の理由で実業界に転職（安田銀行→古河銀行→古河電工）。最終職場は古河電工日光工場であったが、その頃から歌の道で頭角を表しており、47歳で早期退職して歌の道に進むことにしていた。しかし日光町から町長就任を嘱望され、昭和 5 年（48 歳）から 14 年まで日光町町長に就任し、歌人町長として評判になったが、日光町に観光課を新設したり、スケートリンクを作ったりして行政面でも実績を残した。その功績で昭和 33 年（77 歳）日光町が市に昇格した時に地元出身の画家小杉放菴らとともに最初の日光市名誉市民に推挙された。

比庵は若い時から歌の道にあこがれ、また京都大学在学中から絵手紙を書き、季節折々の絵に歌を添えて日課の如く知人友人に送っている。その数は膨大で、この時期に絵手紙を書き続けたことが後の比庵芸術の基礎となった。

60 歳（1942 年、昭和 17 年）で糟糠の妻鶴代に先立たれたが、その悲運をバネに藝術活動をすすめ、折しも歌の道で懇意になった日本画家の巨匠川合玉堂の賛助を得て第三溪と創立した野水会（やすいかい）の名前で作品展を開催した。これが大好評で玉堂が亡くなる 1957 年（昭和 32 年）まで毎年開催し、比庵は世に広く知られるようになった。

歌・書・画の三位一体の芸術を進め、80 歳を迎えた比庵は「紅（くれなゐ）をもて老いを描く」「毎日佳境」をモットーとして創作活動を高め、晩年は自由・闊達且つ温かみのある作品を作り、歌・書・画ファンを魅了している。

組織に属することが苦手だった比庵だが、1966 年（昭和 41 年 84 歳）に宮中歌会始の召人に選出され、1971 年（昭和 46 年 89 歳）には生まれ故郷の岡山県高梁市の名誉市民に推挙されている。

比庵は作品だけでなくその包容力のある人柄も多くの同世代の人に愛されたが、比庵没後 41 年（2016 年現在）の今日でもその人気は引き継がれ、毎年日本の何処かで作品展が開催されている。（2015 年は美術館での作品展が 4 回）

また近年は絵手紙の元祖として絵手紙愛好者の比庵ファンが多くなっている。
1975 年（昭和 50 年）93 歳の長寿を保って他界した。以上

京都大学時代



日光町長時代



第三溪と作品展会場にて

